



平和学習～琉球の風にふれて～

2月16日(金)、沖縄市平和講師の比嘉恵理香さんと琉球古典音楽科の細川拓実さんをお迎えし、平和学習を行いました。2校時は7年生と吾妻小学校の6年生が、3・4校時は8年生(3組はオンラインで)が、日本で唯一地上戦が行われた沖縄での戦争の話を聴き、琉球音楽に触れる体験をしました。その時の様子と生徒の感想です。



えりかさんのおじいちゃんの体験談の話で、戦争というものはとても恐ろしく悲しいことしか生まないことだと思っていたけど、それ以上に突然家族を失ったり、一つの判断がとても大きく命にかかわってきたり、人の心が無くなってしまったり、間違った教育を教えたりと、思っていた以上にとても恐ろしく悲しいものだと思えました。また今の自分がいるということは、私のおじいちゃんおばあちゃん、ひいおじいちゃんひいおばあちゃんがその状況を頑張ってくれたからなのだ実感し、今当たり前前に過ごせているこの状況、自分の命に感謝し人を大切に、生きようと思えました。

(8年3組 安藤 奏絵)

今回の授業を受けて、沖縄であった戦争はなんとなく「多くの犠牲者が出て大変な戦争だった。」という認識をしていました。そんな今までのイメージ「大変な戦争」をはるかに超えた現地の悲惨な状況や、今では考えられないような教育があった事実に驚き、絶対に忘れてはいけません。ずっと伝えていかなければならない出来事だと感じました。

沖縄の伝統的な音楽には、沖縄独自の言葉や歴史が感じられる発祥の経緯を聞いて、戦争を超えても伝えられる。それほど大切に沖縄の人には必要な音楽なのだと思いました。

沖縄に限らず、昔の悲惨な出来事は忘れてはならない出来事は日本にとどまらず、世界にたくさんあるのだと改めて感じました。それと同じように、素敵な歴史的な文化など。全部含めて、忘れない、伝えるべき物だと今回の授業で学ぶことができました。

(8年2組 川勝 琴寧)

命の尊さや平和な社会の実現について深く考える機会となった生徒が多かったようで、感想にもそれらのことがたくさん書かれていました。また、戦争の中でも誇りをもち、文化を守り、今につながっていることを実感した生徒もいました。これからも、たくさんの方々との対話を積み重ね、生徒の豊かな心を育てていきたいと思えます。

第3回コミュニティ・スクール協議会の実施

吾妻学園第3回コミュニティ・スクール協議会が本校で実施されました。委員の方々に本年度、本校の取組の成果と課題について、学校評価アンケートの結果をもとに説明しました。その後、来年度めざす生徒像の具現化に向けて、授業参観を行い、手立てについて話し合いました。今回の授業参観では、9年生の生徒が、授業のねらい等について説明しながら委員の方々をご案内しました。来年度も学校と地域と保護者が手を携えて「地域とともにある学校・吾妻中」の具現化に向けて、取り組んでいきたいと思えます。保護者の皆様のご理解、ご協力、よろしくお願いいたします。

(諏訪 恵美)

